

## 天狗が子どもの健やかな成長を祈願

◎第19回子泣かし天狗祭



▶天狗を囲んで記念撮影

「鬼ヶ城山に住む天狗は、太鼓の音につられて山里に下り、一人の子どもと出会う。しかし、子どもは天狗の恐ろしい顔に驚き、泣いてしまう。子どもが大好きな天狗は困り果て、驚かせてしまったお詫びに、神通力で子どもに健やかな成長と幸せをもたらす―」

平成2年に太鼓集団魁が中心となって始まったこのユニークなイベントも今年で19回目。1月11日に広見体育センターで行われた今年の子泣かし天狗祭には、平成19年に誕生した幼児47人とその保護者が参加しました。

幻想的な会場に太鼓の音が響く中、2人の天狗が登場。泣き叫ぶ子どもを天狗が一人ひとり抱き抱え、「元気に育て」「かわいく育て」「大きく育て」と叫ぶと同時に、保護者が力強く太鼓を打ち鳴らし、天狗と共に子どもの健やかな成長を祈願しました。



▶しめ縄づくりの様子

## しめ縄づくりで交流

◎多世代交流会

子どもと地域の方など世代間の交流を図ろうと、12月19日、町農林業者トレーニングセンターで多世代交流会が開催されました。会場には、日吉小学校（岩本恵子校長）児童と鬼北町老人クラブ日吉支部（渡辺武支部長）の会員が参加しました。

はじめに、老人クラブの会員が、しめ縄の由来や作

り方を児童に説明。低学年の児童は、細かい作業に悪戦苦闘しながらも、老人クラブの会員や上級生に教えてもらいながらしめ縄を作っていました。また、全員のしめ縄ができた後、児童から老人クラブの皆さんに感謝の気持ちを込めた手作りのプレゼントが贈られました。



▶スキー教室参加者

## 白銀のゲレンデでスキーを満喫

◎鮎スキー教室

町内の小学6年生児童を対象としたスキー教室が1月5日と6日、内子町のソルフアオダスキーゲレンデで開催され、26人が参加しました。

この教室は、鬼北町体育協会所属の町内のスキー愛好家が組織する鮎スキークラブが主催し、平成元年から毎年実施されているものです。

参加者は、指導者からボーゲンなどの基本的な滑り方や上手な転び方を教わった後、早速スキーに挑戦。ほとんどの参加者が未経験者のため、はじめは転ぶ児童が続出しましたが、そこは順応力の高い子どもも。短時間のうちにメキメキと上達し、最後には全員が上手に滑れるようになりました。